

別冊

福祉生活病院常任委員会資料

(令和2年8月21日)

〔件名〕

1 第11回中海会議の開催結果について

(水環境保全課)・・・1

生活環境部

第11回中海会議の開催結果について

令和2年8月21日
総合統括課
水環境保全課
農地・水保全課
水産課
河川課

沿岸住民の生命と財産を守り、美しい中海の自然環境を次代に引き継ぐため、中海の水に関する諸問題を協議検討する第11回中海会議を以下のとおり開催しました。

(参考) 中海会議とは

平成21年12月19日に締結した鳥取、島根両県知事の「協定書」を踏まえ、沿岸住民の生命と財産を守り、美しい中海の自然環境を次代に引き継ぐため、新たに中海の水に関する諸問題を協議検討するため設置（平成22年4月22日）した会議。

※個別課題の検討・調整を行うため、次の4つの部会等を設置している。

- ①中海湖岸堤等整備にかかる調整会議 ②中海の水質及び流動会議 ③中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ
④中海の利活用に関するワーキンググループ

- 1 日時 令和2年8月19日（水）午後2時から4時まで
2 場所 米子ワシントンホテルプラザ
3 出席者 国土交通省中国地方整備局長、農林水産省中国四国農政局次長、鳥取県知事、島根県知事、米子市長、境港市長、松江市長、安来市長
＜オブザーバー＞ 環境省（中国四国地方環境事務所長）、防衛省（美保基地副司令）

4 概要

(1) ラムサール条約登録15周年について

○令和2年度は、15周年を迎えることから、条約登録後に活発化したワイズユースや保全再生の取組を振り返り、国、両県、沿岸4市が未来志向のもと、さらに連携していくことを確認した（記念イベントを10月31日に米子市にて実施予定）。

(2) 中海及び境水道の堤防、護岸等の整備について

○部会「中海湖岸堤等整備に係る調整会議」（事務局：中国地方整備局出雲河川事務所）から、中海湖岸堤整備の進捗状況等について報告が行われるとともに、大橋川改修事業の条件として、大橋川拡幅の前段階で中海湖岸堤を先行して時系列的に整備する手順を踏まえ事業を進めることについて、改めて確認がなされた。

[報告の概要]

- ・中海湖岸堤の短期整備箇所については、鳥取県側は昨年度までに全箇所が完成し、また、島根県側も今月中の完成予定となり、引き続き短中期整備箇所の進捗を図って行くことが報告された。
- ・そのうち、短中期整備箇所である米子港防波堤箇所については、一部区間が「かわまちづくり計画」として登録、事業化されており、今年度は、県や米子市と調整を図りながら親水護岸の詳細設計を行うことが報告された。

[主な意見]

- ・事業化された「かわまちづくり計画」における親水護岸整備は、地元もたいへん期待している。予算確保、進捗管理について配慮をお願いしたい。（米子市長）
- ・大橋川改修においては、白潟地区や朝酌矢田地区の用地買収が大詰め段階であるので、国にはしっかり予算確保をお願いしたい。また、中海湖岸堤整備については、引き続き短中期・中期整備箇所のスケジュールを明確にし、地元の意見も聞きながらしっかり取り組んでいただきたい。（松江市長）
- ・「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」が最終年度となっているが、全国的に大規模な浸水被害が続いていることから、次年度以降も継続して予算の総枠確保が必要である。（島根県知事）

(3) 中海の水質及び流動について

○部会「中海の水質及び流動会議」（事務局：鳥取県生活環境部）から、令和元年度の水質状況や改善に係る流入及び湖内負荷対策の取組について報告が行われ、引き続き水質モニタリングを継続するとともに、評価を行い必要な対策を講じていくことが確認された。

[報告の概要]

- ・令和元年度は、12地点3項目（COD（化学的酸素要求量）、全窒素、全りん）の36データのうち、35データで目標を達成した（米子湾のCODのみ未達成）。全窒素、全りんは平成21年度に水質目標値設定以降、11年目にして目標を達成した。
- ・目標を達成した要因は、①下水道等の生活排水対策が進んだことによる窒素、りんの流入量の減少 ②浅場造成・覆砂による底層からの窒素、りんの溶出量の減少 ③9～11月の降水量が少なく、道路、側溝、山林、水田等からの自然系流入負荷の減少の3点が考えられる。
- ・令和元年度の部会の取組として、水質目標値を達成していない米子湾エリアに注目し、米子市中央ポンプ場沖を底質改善の地点としてファインバブルによる実証試験の取組や底質調査及び覆砂効果シミュレーション等の取組を実施し、今後も取組を継続する。

[主な意見]

- ・浅場造成、覆砂には期待している。覆砂の効果検証シミュレーションを進め、調べながら進めていただきたい。（米子市長）
- ・流入負荷の削減、米子湾が奥地であることの地形的な問題、深く湖底を掘削した地域等、様々な課題がある。今後ともモニタリングしながら水質改善対策を継続してもらいたい。（鳥取県知事）

(4) 中海の水産資源の現状について

- 昨年度の会議において、水産資源の減少を懸念する意見が示されたことから、両県が保有する漁獲量や漁業者数などのデータについて事務局（鳥取県令和新時代創造本部）から報告され、水産資源の回復や水産業の振興について、次回の中海会議でどのように議論していくか両県で協議していくことが確認された。

[報告の概要]

- ・漁獲量は、鳥取、島根両県ともに年々減少傾向であり、漁業者の減少と高齢化の進展による操業効率の低下が一つの要因と考えられる。他方、中海の利活用の取組として、サルボウガイのかご養殖試験や、マハゼの陸上養殖試験等の水産振興の取組が行われており、成果が出始めている。

[主な意見]

- ・水質と水産資源との関係が分からない。これを調査・分析するための水産振興部会を設けてはどうか。（松江市長）
- ・漁業者にとって魅力がなければ漁獲量も増えないのではないか。（島根県知事）
- ・地元の水産資源を採って地元で消費する循環を作る必要がある。（米子市長）

(5) 中海沿岸農地の排水不良について

- 「中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ」（事務局：米子市経済部）から、中海沿岸農地の排水不良改善の取組状況について報告がなされるとともに、引き続き、関係機関が公共残土に関する情報の共有化を図り、客土（農地嵩上げ）材としての公共残土受け入れを促進していくことについて確認がなされた。

[報告の概要]

- ・崎津モデルほ場（A=3.3ha）において、令和元年度はA=0.31haの客土を実施し、全体進捗が54%となった。また、新たに彦名地区（A=0.7ha）で排水対策工事に着手した。
- ・対策農地における営農改善が図られ、夏ねぎ栽培が可能となったと農業者から評価を受けた。

(6) 中海の利活用について

- 「中海の利活用に関するワーキンググループ」（事務局：島根県政策企画局）から、中海の利活用の取組について報告がなされるとともに、今後取組の重点化や成果目標の設定を行うことが確認された。

[報告の概要]

- ・「白砂青松の弓ヶ浜サイクリングコース」が全面供用開始され、鳥取うみなみロードとともに、鳥取県の東西を結ぶコースが利用可能となった。
- ・今年度から、鳥取県の水産部局もメンバーとして参画したことから、国交省が整備した造成浅場で試験を行い、採取した幼魚を使用して、民間と共同でマハゼの陸上養殖試験に取り組んでいる。
- ・昨年度の中海会議で取組の重点化等について提案があったことを踏まえ、今年度は、各取組について基本的理念を設定した。次年度へ向けて取組の重点化等について具体的な検討を進める予定。

[主な意見及び提案]

- ・よなごベイ・ウォーターフロント検討会による「かわまちづくり」の推進はインパクトのある取組であり、ご協力をお願いしたい。また、サイクリングコースの設定は多くの集客を期待できるので重点課題として取り組んでほしい。（米子市長）
- ・環境教育の観点として、プラスチックごみ問題について学ぶ機会があってもよい。（境港市長）